

# 地域への愛着を育む「放課後子ども教室」でのネイチャーゲーム

記入日：平成21年9月4日

フェニックス宮崎ネイチャーゲームの会 古田 栄子

## 1. はじめに

地域の参画を得て取り組んでいる「放課後子ども教室」での自然体験活動を通して、子供たちが地域の人とつながりを持ち地域への愛着を育むことを念頭に、ネイチャーゲームのコーディネートに取り組んでいる。

## 2. 活動の流れ

- ・平成17年度「子どもの居場所事業」にネイチャーゲーム教室を開催
- ・平成19年度から年3回、「放課後子ども教室」事業に、ネイチャーゲームイベントを開催
- ・平成20年、郡内の「放課後子ども教室」事業に、ネイチャーゲームイベントを開催
- ・平成21年、新規の町内教室事業に、ネイチャーゲームイベントを開催

## 3. 活動を取りまく主な関係団体とその役割

主な関係団体	主な役割
新富町放課後子ども教室「あおぞら」	チラシ印刷・配布・回収、指導員の配置
新富町教育委員会	施設・フィールドの提供、後援名義
上新田小学校	チラシ配布の協力
児湯教育事務所	チラシ配布の協力
新富町放課後子ども教室「こだま」	チラシ配布・回収、指導員の配置
川南町教育委員会	施設・フィールドの提供
一丁田地区	フィールドの草刈り
宮崎日々新聞新富支局	イベントの広報、取材、記事掲載

## 4. 成果と課題

- ・活動を通して、指導の場を提供するとともに指導員のスキルも高まり、指導員間の交流も深まった。
- ・埋もれていた地域の自然を掘り起こすことができた。
- ・継続して活動することで、事業に参加するリピーターが増えてきた。
- ・ネイチャーゲームイベントの広報により、ネイチャーゲーム依頼が増えた。
- ・地域の自然に対して、参加した指導者や保護者の意識が高まった。
- ・保護者や地域の方々を巻き込むイベントの工夫や呼びかけが課題である。

## 5. ネイチャーゲームも「継続は力なり！」

- ・まずは足元の自然に目を向け、自ら足を運び体験したり感動を得たことを元に、自然と人とを繋げていく場を誠意をもって提供していくことが大切だと思います。その積み重ねが、人を呼び（参加者も指導員も）巻き込み、新たな活動の場を築き、ネイチャーゲームのニーズが形となっていくと思います。

## 6. 活動写真



地域の水辺で夏の虫探し



校庭の自然を再発見



地域の人と自然に親しむ